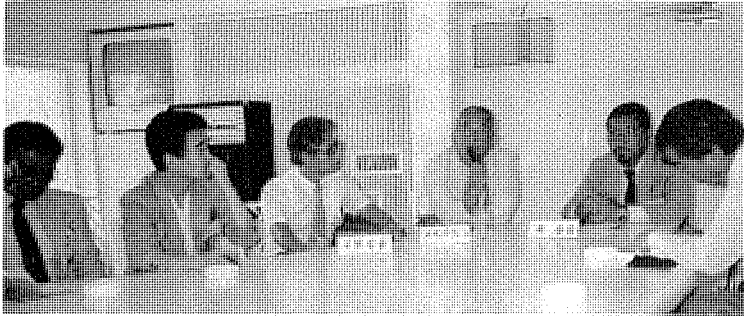


JCD-KANSAI

Japanese Society of Commercial Space Designers

昭和60年 9月
第 6号



真夏の気楽な勉強会 JCD 談話室

85「商環境デザイン賞」の第2部佳作賞に入った、大阪梅田堂山町の「パークウオークイースト」4階を会場として組織委員会企画推進のJCD談話室と夏季ビヤパーティが開催されました。目もくらむような真夏の太陽の下、難踏の梅田地下街から地上へ出て、スキップフロアのアプローチを1階から4階へ上る程、床も壁もロフト感覚の構築はすべて白のOP、その中を真青な空と白のコントラストが夏にふさわしく、梅田界限にあって或る種の実体験のスペースです。

会場は新入会員も多数参加、赤松副理事長以下、会場のグランドテーブルを囲み、レクチャーでない談話室風な雰囲気にならな感じで、講師を迎えました。

電通大阪支社クリエイティブ局長、井東準太氏の仕事を通じての生活環境、社会のもつ今の感性とその未来性について、氏のキャラクターを私たちは強く感じた談話でした。独得の話し方で話は右往左往しても必ず始めの結びがあって一つ一つのエッセイが共通の結論でまとめられていました。

① 大ファンであるプロ野球、阪神タイガースのファン気質、今年の広島カープス、読売ジャイアンツ、の三つ比較。 — ② もっと失敗をするコンピューターの開発、人間と対話し人間がミスを発見できるコンピューターに会いたい。今の人間が手を出さなくても正確に作業する完璧に近いコンピューターを泥くさい意志を持つ次元のコンピューターにならないのか？ これは、テクノロジー時代の問題点として、人間と技術、喜怒哀楽とテクノロジーの時代に入っている。文明でなく文化を最優先する時代。完璧な自動車をつくることは文明であるが、文化は毎日自己の意志で行うジョギングのようなもの。③ 今皆が懲しがっている「お袋の味」はエネルギー革命で作れない。即ちガスコンロ、電子レンジでは昔の煉炭火鉢と根本的に異なりこの火種がお袋の味をつくる秘密なのです。④ 更に話は理論技術の科学と勘と訓練の職人気質、や ⑤ 東京と関西のクリエイターの気質、グラフィックの東京、CM、CFの関西人等、比較対比を中心に、



照 空 間 大 募 集 '85(4th.)
Nashop LIGHTING CONTEST 実施中!

●お問い合わせは、松下電工・電材事業本部マーケティング部「ライティングコンテスト係」へ。〔〒571〕大阪府門真市門真1048 ☎06-908-1131

予定より30分もオーバーする氏のお話しと意見交換も出る大成功の談話室に参加者一同満足顔。

つづいて第2部の夏季ビアパーティーは恒例で、賛助会員の紹介と挨拶、新会員の紹介とコメント発表、アトラクを混え、盛夏の会員コミュニケーションイベントも成功裡に終わりました。若いフレッシュな正会員も多数参加、JCD関西支部も、平均年齢が下り、層の拡大を感じ、フレッシュに歩み出したと思われます。今年の夏季集会。ご担当の皆様ごくろうさまでした。(M. O)



新入会員歓迎によせて

副理事長 赤松良一

我々のJCDも創立以来4分の1世紀を迎えんとしているが、それだけの歴史をもっての故に、一般社会や各ジャンルの動向がそうであるように当協会も何度かの生態的変遷を経過してきたように思う。—そしてここ数年の課題を強いてあげるならば、それは全員構成の閉鎖的個定化、高令化と、それに関連する協会活動の活力減退、マンネリ化への共通認識であった。(社団法人である協会で、しかも支部レベル活動としては、割合によくやる協会としての評価も一方ではあり乍ら、より意欲的な視点での前提にたつとその批判はまぬがれないと考えている)

そこにおける今回の大量入会はその意味で誠に当を得たものであった。—それには長年の懸案であった店舗設計家から商環境設計家協会への改名の断行、それに伴う担当委員会の門戸開放的キャンペーンによるところが大きいと思われるが、いづれにしても若手、中堅の有力メンバーが既に諸手続きを完了しその後も多くの入会希望者が続いていることは、昨今希にみる現象であり、このジャンルの社会的位置づけの強さを感じるとともに極めて結構な現象と受とっている。

これを機会に、この協会の殊に栄光ある関西支部の活躍を一段と強化しなければならない。—元来社団法人としての協会は、それによって具体的なメリットを云々すべきではないが、外部へのアピールとして、個人では限界のある社会的発言を協会の名において行うこと、内部では職能能力の向上の場として協会を大いに活用すること—などが当面のことであるが会員各位が顔を合わせ、語り合える、云いたいことを言い合える会のムード



商業空間を演出する

yamagiwa

大阪店・06(643)2111<大代> 神戸店・078(241)2111<代>

づくりも必要である。

支部事務局、各常設委員会、プライベートな関係、どこからでもお互いの希望をどんどん云い合って、有言実行の会にすべく、旧会員新規会員ともどもの活性的行動を期待して、新入会員歓迎の言葉と致します。

新入会員神戸トリオ

K&Kアーキテクト 小宮 容一
商業計画研究所 神戸 一生
西脇設計 長岡 茂

我々三人は、7年前に三宮の再開発ビルで仕事をしている時に親しくなり、たまたま自宅が明舞団地ということもあって家族ぐるみでつきあっている仲間です。

今回、西脇先生の推せんでJCDの会員に加えていただき、業界に新しい息吹をと張り切っています。

三人を代表して神戸が抱負を書きます。

先日、梅田のフェーイーストパークで開かれた新入会員？歓迎パーティに参加して、第一線で活躍されている先輩達と楽しいひとときをすごさせていただいている時に、ふと感じたのですが、いつもは華やかでエンターティナーはこのカフェレストランも、今日ばかりはすこし寒々しい印象を受けた、F・E・Pのコンセプトが白いスタジオに踊動するカラフルなファッションショーであったのなら、JCDのパーティーは招かざる客であったのか。

店舗を劇場にたとえる話をよく聞く、お客が主人公で、登場人物のドラマティックな生活のステージを提供し、演出するのが設計家であり、オペレートするのが店主であるという考え方である。私は学生時代に演劇をやっていて心の底からにじみでるような快感を感じたのは、演出をしていて、自分のもくろみ通り、舞台環境が変わり、役者が演じ終わった後の観客の拍手であった。

設計家は演出家である。我々三人は仲間と共に、神戸で街の演出家集団シティデザインコミュニテックを結成し、街を遊ぶ発想で、遊

びを仕掛け、遊び空間を提案しています。

JCDの活動が、遊び心に満ち、絶えずどきどきする環境を創り出して行くことを期待し、我々もその一役をにないたいと思います。

談話室・ビアパーティに参加して

西村 憲一

先日のパークウオークイーストでのビール早飲大会で、イッキ、イッキと嘯したてられた訳でわなないけれどつつい本音が出るというか、本性（酒飲み）が出たと言うか、見事予選通過、決勝では人並はずれた要氏に完敗。さすがこの世界で男一匹生きてこられた貫録があると感心したり、驚ろいたり、このような遊びにおける本音の出し合いのように、いつも互がせいっぱい主張し合う、そんな集まりであれば、JCDの活動もより楽しいものとなるでしょう。この辺で自己紹介と言ったらなんですが、主に商業施設、ホテル等の照明計画を行なっておりますが、*“あかり”*の世界から店装のトータル内装へ、さらに業態提案へと皆様方のお力を得ながら何らかのお役に立ちたいと思っております。今後共どうぞよろしくお願いいたします。

商環境設計家協会の一員として

UZUI DESIGNS 渦居 茂

企業を退社し、フリーとなり、月日は風のように流れ、もう満5年以上になります。仕事、仕事に追い回され、充電期間。余裕の時もなく、ただ馬車馬のように、一つの方向に、脇目もふらずつっぱしるのみで、他を見ているが、自分を中心とした回りしか見えず良く言えば、個性（好み）が、我が強くなっていく自分に驚き、立ち止まってしまう。

国際的な場で活躍したいと願望し、アメリカ人の友から、アメリカ風な事務所名を、名付けてもらったのに、思いと現実のこのギャップは大きい。人1倍、好奇心が強く、心臓も強く、いろんな場所に顔を出すのです。情報

は少なく、片寄ってしまいます。

企業のデザイナーとして仕事をして来た私は、皆んなから励まされ、刺激され、良品集団の内で働いてきましたが、それが、今フリーとなって、切嗟琢磨なく、進歩。生長の言葉が、無関係のように響き、頭が重い。頭痛薬を買う思いで、JCDの会員になり、このももやを消し去る特効薬である事を期待しています。

効き目は、自分に勝ち、日々の努力と思いが、今後ともよろしく願います。

私とスカウディングライフ

(株)船場S.C総合開発研究所

香川英行

灼熱の太陽の燃える神鍋の高原に、日本ボーイスカウト大阪連盟のスカウト達7000人が集り、創立35周年記念合同野営大会が開かれた。Osaka Local Council Camporee 1985 <OSLOCC'85> の愛称で8月8日から4泊5日の日程で行われた。薄暮から開かれる開会式、あたりが暗くなった頃、聖火に点灯され、14,000の瞳は1点に集中する。何と壮大な、ながめであろう。私とボーイスカウトの出合いはまだ2年目。私の息子がカブスカウトに入隊したことから始まる。日頃、父と子の対話の少ないなかで、日曜日、息子達と野外へ出かけることが段々と楽しみのひとつとなったのである。自分の子供と共に人様の子供まで、めんどろをみるうちに、そのスカウトの活動精神とか、野外活動を通じての感性教育、そして共同意識の育成と、今の世の中に欠けてゆく何か大切なものを、活動を通じて、子供達と共に育んでゆく。会社での仕事の忙がしさの中で、忘れかけていた、何か大切なものが、ここにはあるような気がするのである。自主性、そして連帯感、さらに自然とのふれあいの中で豊かな心をつくる。また約40Kmもある道のりを夜ずっと歩き続ける、夜間ハイク。自ら 挑戦して自信をつける。野外キャンプでの生活の原点を知り、火の尊しさを知り、共に喜びをわかち合う。

今の世の中で個人では仲々できないこれらの体験をボーイスカウトの活動を通じてこそできるであろう。現在、私はボーイスカウト大阪連盟、北大阪地区、枚方17団のB.S隊の副長で、ささやかながらお手伝いをしていただけなので、あまり大きなことは言えない。ボランティア活動であり、自らの意志だけで、お手伝いしている訳であり、枚方17団というのは枚方市では最も新しい団なのである。それだけに私のようなまだ未熟なものが指導員にならざるをえないとも言えよう。それでも今の私は持ち前の、子供の様な気持で、直になり、子供達と一体となって活動することが楽しい。

子供達に教えられることも多い。しかし、スカウト達に、自主性をもたせ、活動の方向を示すリーダーとしての立場は、今会社で、部員を管理するのは、そう変わりはないように思えるのである。特に私達の仕事であるデザインとか創作活動は、その精神活動と同じである。やる気と自主性、それに直に心を表現する創造性などは、野外活動を中心に、自然とのふれ合いなどは、今の若い人達に欠落している感性教育のひとつとして大切だと思っています。会社や仕事以外の人達との交流の輪、さらに子供達が大きく、育ててゆくだろう希望。今から、段々と拡がるだろうと思われる、コミュニティ活動。忙がしさに明暮れる時代から、忙がしさの中にも、生活の原点は地域との連帯ということも、大切なのではないかと思、今日、今頃である。



近況

大阪市浪速区桜川 3-4-20

アルファ インターナショナル株式会社

代表取締役 畑 茂徳

1985年、我々を取りまく環境は、増々激動の度合いを早めて来た。ファッションに、インテリアに、そしてフーズにと、日々大きな変化が見られる。

特にファッションに至っては、日本の世界に対する役割は、大変大きいと思われる。

日本は、ファッションの未開拓国である。そして我国は、社会成長の高さと、急速な文化の高揚に依って、増々ファッションニーズが高まって来ているのである。

主都圏での小さなアクティヴな波紋は、大きな波となって、またたく間に日本国中の隅々へと拡がって行く。何とダイナミックな、社会になったのだろう。我、誇るべきカントリーは、何と素晴らしいんだろう。

私が学生であった頃、およそ、ファッションとは、関係もなく、そしてあまり興味もなかった。ウスよごれた空手着を着て、高ゲタに腰手拭いと言う、全くバンカラスタイルで学舎中を歩き廻っていたものだった。

I V Yからモッズ全盛期の頃であった。しかし、仲間にはI V Y、B O Yや、ファッションブルガールが多く居た。あまり個性的な、ファッションのやからには、ねたみ半分、からかい半分で、よくイジメたものだった。

ともあれ、私も今は、世間並に、激変する社会の一構成員として、「何か足跡が残る様な仕事をしたい」と思いながら、日々の激務を消化している。

その様な昨今、私のライフ・スタイル、と言うか、ムーヴメントの中で新しい事と言えば、「エスモード・ジャポン」、と言う「ファッションクリエイター養成」をやり出した事

である。この「エスモード・ジャポン」とは、フランスはパリにある「エスモード・パリ」の日本校である。「エスモード・パリ」とは、フランスで開学以来140年の歴史がある、クリエイター養成校である。日本はその頃、江戸時代末期の時代であり、武士社会の激変期であった。パリ校は、ダニエル・エシュテル。ティエクー・ミュグレー他、数多くの国際的ファッションクリエイターを輩出している学校である。そして数多くあるファッションクリエイター養成校の中心的存在である。「エスモード・ジャポン」は、原宿と言う、日本は元より、世界的にも、ファッションブルな街の一面にある。渋谷区神宮前1丁目・通称ブルームスの小路のつきあたりに位置している。この活動の中で、若者のエネルギーに常に接していると、いろいろ考えさせられる事が多い。私の若い頃と比較してみると、たよりなくもあり、又、非常に頼もしくもうらやましくもある。社会規律なんかの面では欠落している所が多いし、その反面、感性の高さ、熱意、意欲の深さには、感心させられる面が多い。こんな人達の中から、少しでも、素晴らしい人間が育って行ってくれたら、といつも願っている。

「エスモード・ジャポン」も開校まで、3年程準備期間があった。なかなか、大変な時期であったし、困難も多かった。しかし今になってみると、私のライフ・スタイルの一部になっている。週の中、3日大阪、3日東京と言う生活の繰り返しである。これが私の週間スケジュールである。

そんな間を縫っての、私自身のリフレッシュの方法は、深山の溪流釣行とゴルフである。深山溪流釣りは、自然に触れる事が出来てとてもいい。とても素晴らしいリフレッシュ剤である。狙う魚は、アマゴ、イワナ、である。

 照明器具の専門メーカー
マックス電機

■本社 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536
TEL(06)967-0140代 FAX(06)967-0837
■大阪特販営業所 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536
TEL(06)967-0123代 FAX(06)967-0837
■市販営業所 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536
TEL(06)961-8888代 FAX(06)962-5988
■京都営業所 京都市中京区釜屋通御池下ル津軽町770-2 〒604
TEL(075)255-5663代 FAX(075)255-5665

釣果の多くは期待しない。別に釣れなくても良いのである。深山、溪谷に分け入ると、季節の移り変わりが、更に微妙に、刻明に伝わって来る。そして如実に体感出来るのである。

浅春の釣行では、残雪の中を、サック、サック、と進んで行くのである。他人の足跡など無い。ほつを刺すような風が、日頃の多忙な心、傷付いた身体に突きささる。

キリ、キリと寒い、でもどことなく、春が感じられるのである。溪流の淵にある、つやぶきは新しい株を作っている。タラの木も芽をふいている。春だなー。鶯が鳴いている。「ホー・ケキョ」まだ、全ての鳴き声が出来ない。「ケキョ」「ホー・ケキョ」陽が昇り、雪がだんだん溶け出して、流れの上に水滴が落ちる。雪の上に腰を下ろして、ゆっくり山を見上げる。空は冬にしては、とても澄んで青い空である。音の無い世界だなー。人工の音は何もない。あるのは自然の息づきだけだ。せゝらぎの音、鶯の鳴き声、ヒヨ鳥、そして時々来る「ムク鳥」と「ホオジロ」「ゲツ、ゲツ」「チュ、チュ、チュ」と言う声である。そんな自然のまゝが、私は大好である。

今、「人工の音の無い世界」貴重なものは、無い。無の世界は、21世紀の中で、最高にリッチである。こんな最高のロケーションが私をフレッシュに、そして活力を与えてくれるのである。四季、折々の良さのある深山、溪谷の一時、なかなか素晴らしい私だけの時間である。夏になれば、水量も増して、流れの音もより大きくなる。カジカの鳴く声がかん高く、ヒグラシゼミは、杉の木の森の中、カッコウが鳴き山百合が咲く。ブッポーソーが鳴き、おみなえしや萩が花を咲かせる。こんな事をしているので釣果は、大体5匹~10匹位である。

「でも本当は、アマゴの塩焼が最高に美味であり、その為に行くのだー。」?



バイク感覚

野井成正

子供の頃、初めてアメリカ兵（進駐軍）が乗っていたインディアンのバイクを見た時、そのエンジン音や、ガソリンの匂いからの印象が強烈で、子供心にもアメリカのスケールとパワーを感じ、たまらなく憧れた事を、今に鮮明に覚えています。

16才になるとすぐ、二輪免許を取り、キャブトン、クルーザー、陸王、ヤマハYDS-1などを乗り回し、生駒や六甲のヘアピンカーブに挑戦したり、開通したばかりの阪奈道路や名神高速で、曲芸走行（逆立ちやエビ固めで走行）をしたりして、スリルを楽しんでいました。

当時は、今に比べると車もバイクも非力で台数も少なかったのですが、規制もゆるやかで、又、走る側にもある種の節度があった様に思われ、割合自由な雰囲気の中で走れたよき時代でした。

最近では、事故防止の面から、規制を強化する事によって、安全性を確保して行く傾向が強くなっている様に思われますが、反面人間性への信頼感が失われて行く様で、何か寂しい気持ちにさせられてしまいます。

小さな親切、大きなお世話、という感じがしないでもありません。

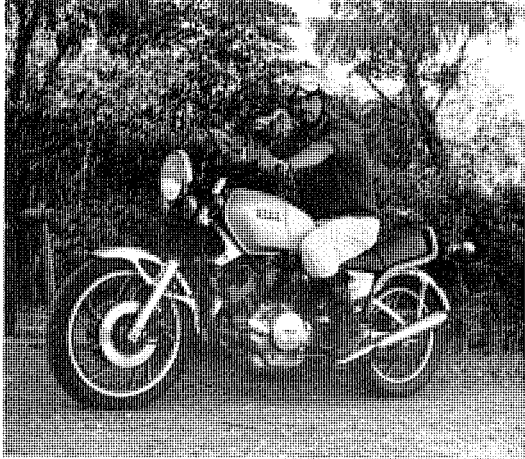
現在は、XJ400SP（アメリカンタイプ）TR1,1000（ツアラータイプ）、SR500（シングルタイプ）、ハスラー250（モトクロスタイプ）など、その時の気分や調子で乗り分けて、バイクそれぞれの持ち味を楽しみながら、毎日走り回っています。

「バイクは人間に一番近い乗り物なんだ」というのは、どこかのコピーの一節ですが、まさにバイクの魅力は、その点であると思います。手足に直結した操作性、体になじむボディフォルム、まるで鼓動の様なエンジン音—自分のリズムと同化し、一体となって走り抜ける時、人間とマシンとの優しい信頼関係を感じ、そこにロマンを感じます。

又、バイクの持つ気持で自由な行動性、走

りの機能に徹したシンプル性、季節や自然—
太陽、風、水—を肌で感じとれる開放感覚も
自分の性格やフィーリングにピッタリきます。

このバイク感覚は、自分の生活信条そのものにも思え、いつまでも大切にしていきたいと感じています。



— 未完成の雑遊ing —

遊点、商点、岡目八目

要 信行

趣味を…と言う事であるが、何が自分の趣宮であるのか、今もって解からない。又、改めて考えて見てもこれといって頭に浮かばない…。困ったものだ…。

今、ふり返って見ると、子供の頃より、何か決められた物や事に対して、又両親から言われる事に対しても、あまり従った事がなかった。だから大変な問題児であったかも知れない。知れないと言うより問題児であったようだ。小学校の低学年の頃、祖父母が大阪の南で住んでいた。自宅のある堺より、夏の暑い日、1人で自転車に乗り、行き先を誰にも告げず、大阪の祖父母の家にとどり着いた事があった。今にして思えば、さっと夏休み中であり、今の子供達のように親が、何処かへ連れて行ってしてくれるわけでもなく、衝動的に1人旅に出たのだろう…。

祖父母の家に行くと、いつもやさしく歓待してくれる。そして親が買ってくれない物も与えてくれた。そこは自分にとって、暖かい居心地の良いパラダイスだったようだ。「お父さん、お母さんに言って来たのか…」とじいさんに聞かれた。当然言って来たわけじゃない。でも本当の事を言うと叱られる//すぐ親が迎えに来て、つまらない堺へ帰らなければいけない…。「うん//言って来た」でも、祖父母はきっとわかっていたんだなあ。夜、父親が来た。仕事の終りに祖父母の家へ寄ったようだ。父は驚いたようだが、怒らなかった。母に連絡をし、祖父母の家と一緒に泊まって翌日、二人で父は借りた自転車に乗り、暑い日中に、昨日来た道を帰った覚えがあるでも楽しかった//祖父母の家でのパラダイスは実現しなかったが父と二人で自転車旅行が

店舗装備 造作家具 室内装飾 設計施工

株式会社 上谷製作所

大阪市西成区天下茶屋2丁目18番33号

TEL(06)661-7031(代表) FAX(06)661-7033

出来たことがそれ以上の満足だった、きっと父は次の日に借りた自転車をかえしに大阪まで行ったのだろう…。

こんな調子で、子供の頃、山口県の、叔母の家にも行ったり、東京までも1人で行った事がある。本当に親泣かせの子供であった。でもけっして放浪癖があったわけではない。それぞれ、自分なりの訳があったようだ。

そうした少年期の中で、今でもその時見た物や感じた出来事が、脳裏に1つの情景として残っている。堺から大阪までの、まだ焼跡が残っている街、阿倍野橋から、下寺町界限など…。満員の夜汽車での不安感や、車中での人々の情景、夜明けの瀬戸内…。また、夕日にそまった富士山など…。思い出せば、語りつくせないほどの思いがめぐって来る。だから、今でも思いつくと、又ひまがあるとすぐ旅に出てしまう。最近のこのような例としては、8年程前の秋だったか、夜行寝台車にむしろうに乗りたくなって、大阪駅より、秋田まで行ったことがある。もちろん秋田は初めて。街も知らなければ知人もいない。でもいつも旅をする時の要領と言うか、ポイントと言うのか、まず地元のタクシーに乗ること。そして市場に行くこと。人と食文化に触れること。必ず新しい出逢いがあり、発見がある。その中で、友を作り、情報を集めてしまう。ひなびた温泉宿に出逢ったり、作りたての県立民族博物館を見学出来たりで、結構楽しいものだ。それともう1つ大切にしている事は市場の中一杯め1屋で食事をする事。本当においしい食べ物と出合うことがある。

最近では、何かと言えば、金が無い、暇が無い…と人々は口癖のように言っておられるが結構、簡単で楽しく情報も得られ、知識もみがかれ、それなりの知恵も出て来るように思う。仕事も商も遊びも人生感もそのへんから

生じて来るように感じている。ただこの旅の中には、どこどここの何を見に行く、と言った枠でとられると、あまり新しい出逢いや発見に遭遇する事が少ないように思われる。

— 気楽に遊 *ing* — これが原点のようだ。結局は、人間が好きで、人情に触れることが目的になっている。

今年になっては、正月のインドネシア(バリ島)、北陸能登、ハワイ(カウアイ島)、九州(伊万里、有田、長崎、雲仙、熊本)、沖縄(石垣、西表、宮古、沖縄本島)金沢(白山、鶴来)そして。この夏休みには、日本海、丹後の久美浜へ、年末から出来れば、シンガポールか香港、もしくは夢の島、タヒチ(ボラボラ島)へ行って見たい。そして来年は6月にカナダ(バンクーバー)へ行く予定。このように書いていると、本当によく旅に出ていると思う。だからかもしれないが、本当は飲み代にお金がまわらずに、こちらの方が、夜のネオンが招いているのだが、少々無理なようだ。これだけ旅の事を書くと、旅が趣味のように思われるが、スポーツも結構好きで、水泳などは、中学1年でスイミングスクールの先生、ラグビーやスキーも人並みにやってきたので、スポーツと自然、個人競技とチームプレーなども、これらのスポーツで学んだように思う。先に書いた旅行の中でも、最近になって、太平洋の島へ行く機会が多いのは、海にもぐりに行くことが楽しいからだ。もぐるといっても、スキューバダイビングではなく非常に原始的な素もぐりである。これが結構自由で「気楽な遊 *ing*」につながっている。

たまの休みは、家族と近くのショッピングセンターまわり、市場が好きなこともあって朝食と昼食をかねて、家族個人個人が、好きな物を買ってきては、テーブルを囲んで、シ

光と影のコミュニケーション



ヒカリ照明器具

小泉産業株式会社

本社 照明事業部 〒541大阪市東区備後町3丁目長谷ビル3F TEL 06-262-0861

ショッピングセンター内での食事を楽しんでいる。しかし仕事上の癖と言うか、知らず知らずに施設等を見て、自分なりに考えてしまうのが現実のようです。「本当の市場がほしい…!!」楽しいコミュニケーションが生まれる市場がほしい、なんて家族相手にぼやいています。

自由きままに気楽にやっていることが、どうも明日への創造エネルギーのように思われます。現在の自分の仕事が又自己の能力が、ピークを迎え来る日の為、そしていずえ来るであろうこの仕事からの別離の日の為に、今日1日の「旅」を「発見」を感じて行きたい。

何十年か過ぎて、南の島で観光相手のたこ焼屋を開いていたたり、信州の山奥で、旅人相手のしゃぶしゃぶ屋かうどんすき屋を開いてみたい。きっとすばらしい人間に出逢い。すばらしい人情に触れられると夢を描いています。

この日曜日、おとんぼの1人息子と二人で（まだ6才になったばかり）自分が子供の頃父と二人で自転車で、堺へ帰った旅を思い浮かべながら、背中に水筒とスコップと、少々のお食を入れたリュックをわついで、腰には山刃をぶらさげ、野球帽をかぶり虫取り網と魚取り網を手に持って、一日森の中をへとへとになりながら歩いていました。色々の虫達との出逢い、リスもへびもザリガニも、いっぱい出逢いました。大きなカエルにも出逢いました。息子は、そのたびに、驚き歓声をあげ、父親の小生は、我を忘れて、それらを追いかけまわした1日でした。彼もきっとこれから1人で森に行くことになるでしょう。そして色々な物に出逢い自分なりの発見をすることでしょう。そしてその旅が自分にとって大切な旅であることをきっと気づく日があることを思い、「ポンジュール・アンレヤン

テ”（こんにちは、はじめまして）の言葉を最後に — 未完成の雑遊 ing — をとじさせていただきます。



●ドルチェ マルニ

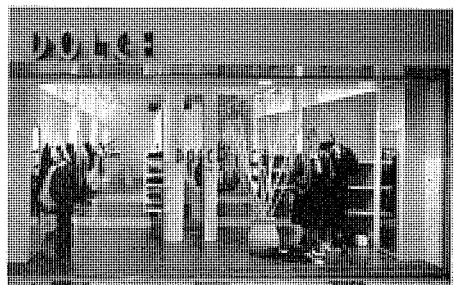
熊本下通り商店街

設計 (株)オリジン

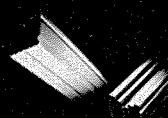
猪多勉

施工 (株)オリジン

従来のファッションショップ機能を、くつがえす事を、プランニングポイントにおきました。通常はどうしても壁面に商品ボリューム、中央に軽い什器等で構成しますがこのショップは中央に商品群構成としています。片方にハンガーゾーンもう一方に棚ゾーンという様にシンプルにヌストレートにレイアウトしました。カラーイメージはホワイト&グレーベージュにまとめ床でフローリング貼りとし、つめたさの中にもホットさを感じさせながら、天井は貼らずスラブを表わし、より広い空間を取り入れました。



AA SYSTEM
STANDING WALL
スタンディング・ウォール



STORE ELEMENT

ROYAL

本社・東大阪市長田東1丁目56番地 〒577
☎(06)789-1234(代) F A X (06)789-1231
東京営業所・東京都墨田区錦1丁目7番11号 〒130
☎(03)634-6180(FU) F A X (03)635-5766

店名 CAFE & JAPANESE

DELICACIES Green

場所 東京駅八重洲地下街

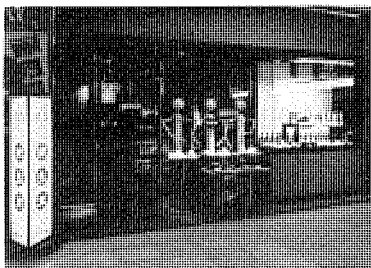
デザインコミッティ DOING 里吉 明

立地は八重洲地下街といっても東京駅より
ずいぶん離れた一番奥（中央通りよりの地下）
にあり周辺ビジネス街が、ターゲットとなり、
駅周辺の店舗のように、旅行客等は顧客にな
りえない場所にあります。設計に入る前のリサ
ーチの決果、やはり運営面で、ビジネスマン
のための店ということで、企画面でも、まだ
完全に実施されているわけではないですが、朝
（出勤前）昼（ランチ及び中間時）夕（アフ
ター5）の3ゾーンに、オフィスライフに適
応するティールームとして、メニューを研究
しつつあります。

例えば朝食メニューの充実とか、ティール
ームなのにうどんや幕の内弁当をだしたり等、
すこしくロスオーバーした発想をしています。
この店舗は大阪出身の東京出店の第一店目
ですが客の受けは順調のようです。

インテリア面では、手前のフロアと奥のカ
ウンターのある2ゾーンになり、客層自体
のこの店でのすごしかたに対応するように留
意しています、スクリーンTVによるニュー
スの報道や新聞や雑誌をそろえたり、ビジ
ネスマンの気軽な情報収集や時間のすごせ
るスペースとしてサービス面を充実させてい
くようです。店内カラーは木部を深みのある
黒をベースにして、おだやかな雰囲気にし
ています。

イス（ソ
ファ）部も
全体的には
ゆったりめ
としました。



'84～'85 JCD 関西組織委員会の気流

組織会委員長 要 信行

「自分には何が出来るのか…」

84年頭に JCD 関西支部の組織委員会、
委員長をおひき受けした時点で、自分に問
いかけた言葉であった。それより以前、4年
間も同じ委員会に所属し、まがりなりにも
出来たことは。現参与OBの山川委員長
の下で行なわれた、擦良での総会ぐら
いであった。それといえ、一つのイ
ベントとして行なったぐら
いで、別段、何か目的を持って行
なったものでもなかった。

若干36才、支部会員の平均年齢が、
当時で46才ぐらいで、年令的にも先
輩会員が大半であった。そのような中、
本当におひきうけて出来るのか、と
言う気持が本音である。考え考えた
あげく、一つだけ残っているのが若
さであった。「失敗」をして、頭を
搔けるのも今のうち、「人生は白紙
に、自分なりの絵を描いて行くよ
うなものだ。」

すべてが初体験、しくじる可能性は
大きく失敗も多い、では、失敗しな
い方法があるのかと言えば…何もし
ない事である。何もしないのなら、
ひきうける必要もない!! 「何ご
とも失敗をして覚え、損をして覚
える」ものだ。損をしたり、失敗
をしたりすることが、生きていると
言う事であって、人間として成長
する事だ。ただし、高い授業料を
払はないように心がけ、やって見
よう。先人の柁を大切に、かと言
ってその柁にとらわれない広い
柁を持とう! 「元気な JCD」を
目指して見よう…と考え、スタート
を切ったわけです。これからの JCD
活動に欠くことのできないもの、
それが「やる気」です。「元気の
気、勇気の気、気くばりの気」こ
の「気」を陽の方向に高揚させて、
楽しい、実りある委員会活動を
目指したわけです。

すべてのニーズにお応えする不燃内装材

セラミック系
人造木材

エースライト

製造元 小野田セメント株式会社

総代理店

檜野石灰工業株式会社

大阪市北区曾根崎新地2-5-26

☎06-341-1274 (担当) 荒木義之

はじめに各委員の方々に、委員長としての
 <私信>をのべました

<私信>

— 現代社会に又、来たるべき時代に向け、「生き生きとしたJCD、明るく楽しい関西支部」を目指し、共に考え、知恵を絞って、汗を流し合える仲間づくりを目指して、従来の委員会活動をベースに新しいビジョンを盛り込んだ、新組織委員会活動を目指しています。世界経済の問題、又、ベンチャービジネスを初めとする新産業群、OA、FA、の急速な進展、INS等高度通信情報システムの開発、又、国内の行財政改革の推進国際社会との関わり等、このような状況を踏まえて、我々職能団体の置かれている立場、又個人の立場をより理解し、個々の役割を果さなければならないと思います。又人間にとって大切な「心」と「心」のふれあい、地域社会との関わり等、我々商業施設プランナーとしてのリーダーシップを持って人間性の復活を目指し、未頼に視点を据えた、新しいJCD、新しい委員会活動の主張を展開しようではありませんか—

そして<委員会テーマ>

- 1) 活力あるJCD及び社会に於けるJCDの位置付けの確立
- 2) 地域社会に於ける「逢えて楽しく、語って実りある」生涯とも信頼、尊敬できる仲間づくり

上記2大テーマをもとに、委員会事業計画案にとりくみ

- 1) 会員が有意義に集え、JCD関西支部活動が円滑に運営される為のサポート
 - 月例委員会の実施、毎月第4金曜PM6:30
 - 夏期ビヤパーティーの実施
 - 年末サヨナラパーティーの実施
- 2) 本部、関西支部、各支部との心の通った

渉外活動の実施

- 本部及び各支部への渉外交流及び出向者へのフォロー
- 総会及び各支部集會並びに支部セミナーへの参加推進
 (関西セミナー)(商業環境会議)
- 3) 優秀な会員の獲得、拡充
 - 新入会員2年間に40名獲得目標
- 4) 優秀な賛助会員の拡充
 - 新賛助会員10社獲得目標
- 5) 関西支部に於ける活力あるコミュニティ運動の推進と提案
 - 支部集會の充実
 - JCD談話教室の開催
 - 評議員、OB会員の談話室の開催

以上のような、内容決定を解認し、3名副委員長主体の9名委員体制を整え、今日に至ったわけです。


ふりかえって見れば、よたよたしながらスタートを切った委員会活動ではありましたがどうか、当初計画した事業計画も各委員の協力により、一つ一つ終わることが出来ました。後残る、4ヶ月あまりの中で、最終の事業として、又任期期間の目標として、新入会員、18名、賛助会員8社、そして第3回談話室(10月中頃に犬山モンキーセンター及び、明治村1日ツアー)を計画、12月に定例の忘年会と、残り少なくなりました。あと少し、あと少しと何かマラソンでもしているような気持ですが、最後まで「元気なJCD」を目指しますので、残り事業計画に付いての、御協力のほどよろしく願いいたします。

「あと18名—。あと8社—。第3回談話室の参加協力及び、忘年会の参加」

「個人の参加、大きな協力」

「今日の対話、明日の活力」

どうか会員各位の参加、協力によって、JCD

 Hakusuisha	INとOUTを光で結ぶ いまグラスティアが新しい ビベルドグラス	AQUA CRAFT <small>BY THE TRADE MARK OF AQUA</small>	株式会社 白水社 (06) 252-4501 (03) 669-1221
--	---	---	---

D関西の存在を、又活動を社会に知らしめようではありませんか、ひとりよがりの自負心じやなく、独自のパワーを生み出そうではありませんか、会員諸兄の再度の御協力をお願いいたします。

商環境フォーラムの企画について

研究開発委員 野村武彦

JCD委員会活動は内外共に協会の質的向上と会員の社会的地位を維持するなどのトレーニング活動ともいえる訳で、その積み重ねが成果となるよう期待しております。我々の研究開発委員会では昨年秋「商業環境会議 84」を担当し、特に外向きに協会の存在性を訴えたつもりですが、ややプロモーター精神を意識し過ぎたきらいもあり大変盛況ではあったが会員の皆さんにご苦勞を掛けたことは否めません。今秋に予定しております当委員会担当のフォーラムについては再度企画会議を重ねて、当協会に必要な基本的課題をとり上げその中からテーマを絞り込むことにした。

① JCDの社会的PR

- 出版事業—会員の自己PRを含めた人事録の作成
- 作品展示会、発表会—デザイン賞の紹介、個展の開催
- 学生に出品を促す場づくり—協会主催のコンペテーション

② JCD活動の活性化

- 会員を社会的にPRする手段
- デザイン賞の活用、重要性
- メーカー、企業、小売業グループとの交歓
- 他のジャンルとの交歓及情報交換
- 研究会及び同好会の活換化
- 出版活動の具体化

以上の各項目の中で今回は会員の質を内外に訴え紹介することを目的として、特に若手デザイナー、学生に呼びかけJCDの将来向け人材の育成確保にも役立つことに狙いをつけた。そのためには唯一の作品コンペの場で

ある商環境デザイン賞に栄を得た会員の労作を徹底的に追求し、その意図や苦勞話を通じて設計者のプロフィールを知り設計活動のエキスになることを目標に、下記のテーマで企画した。

PART I '85 商環境デザイン賞、受賞作品

(設計者による解説と映像による

企画の概要

作家と事業者の出会いから、作品完成までの過程を段階的に解説

………会員レポーターによる現地取材

事業者とのインタビュー

来街者とのインタビュー

映像による情景取材

………受賞作家による解説

計画の理念及プロセス

ワークの解説

………審査委員による講評

PART II (発表者—当日出席—によるパネルディスカッション)

“テーマ”については今後協議することになるが、受賞作品の共通点を把握設定する。

期 日 11月9日(出)の予定

広 報 ポスターによる

場 所 未定

参加対象者 会員、関係業界専門家、学生

予定動員数 300名前後

発表対象者 「大賞」「優秀賞」の中から3～4件を予定

(注) 内容については、動員数、予算設定との関係で多少の変更があることをご諒解下さい。

編集後記

残暑御見舞申し上げます。8月中旬に発行予定であった第6号は、編集の不手際と原稿依頼をお願い致しました方々が夏休みと御多忙のため、大幅に遅れてしまいました。

しかし、今回も内容の充実した紙面をお届けすることが出来たことは会員皆様方の御協力と感謝致しております。

(H.Y)